

今月は、「さらなる安全・安心をめざして」ということで特集を組みました。前半では、私たちが普段利用している自動車や船舶、また飛行機（航空）の研究機関の方に、それぞれの安全や安心に関わる近年の取り組みを紹介いただきました。それぞれの交通機関を取り巻く環境が異なり、特有の課題はあるものの同じようなキーワードが出てきたことにお気づきかと思います。それは、「モニタリング」や「AI」また「機械学習」といったワードです。手段は異なれど、利用者や運転士などへの安全や安心を提供する技術には共通するもの多くあると改めて感じました。

後半は、鉄道の安全・安心を向上するための近年の研究課題について、鉄道総研の取り組みや、個々の課題として、機械学

習を利用した列車の異常検出技術、駅の避難安全性の向上に向けたVR技術を利用した取り組み、春先の融雪災害の危険度評価に関する課題、さらに列車乗降時安全性向上に関する課題について紹介しました。本号で紹介した記事のほかにも、安全・安心にかかわる研究開発は多くの分野で進められていますので、今後も機会をつくり本誌で紹介をしていきたいと思います。

さて、次号は、「鉄道の地震レジリエンス向上」と銘打って特集します。特集では、地震の規模を推定する手法や鉄道沿線の揺れやすさや被害を推定する手法、また、鉄道構造物の耐震性評価など近年の取り組みを紹介します。(S.I)